

令和3年度

自己評価報告書

令和4年3月

日本航空大学校
北海道 新千歳空港キャンパス

日本航空大学校北海道の沿革

- | | | |
|--------------|-----|---|
| 1932年(昭和7年) | 10月 | ・甲府在郷軍人航空研究会を母体とし、航空発動機練習所開設 |
| 1933年(昭和8年) | 2月 | ・山梨県中巨摩郡玉幡村に40万平方メートルの飛行場を開設 |
| 1936年(昭和11年) | 8月 | ・財団法人山梨航空研究会を設立し山梨飛行場を設置。サルムソン機を使用して、飛行士養成を開始。所有機数10機 |
| 1939年(昭和14年) | 7月 | ・山梨航空技術学校設立認可を受ける |
| 1988年(昭和63年) | | ・熊谷陸軍飛行学校甲府分校が設置され、飛行場を共用。通信省航空局より200名、南方航空岡9326部隊より300名の整備委託生を収容、在校生2,000名となる
・卒業生は陸軍航空廠へ軍属として全員優先採用される |
| 1942年(昭和17年) | 1月 | ・国家の要請により山梨航空機関学校と改称
・航空整備士養成の専門校となる |
| 1945年(昭和20年) | 8月 | ・終戦により閉校 |
| 1960年(昭和35年) | 3月 | ・学校法人梅沢学園、山梨航空工業高等学校の設置認可を受ける(学校教育法第一条による高等学校) |
| 1964年(昭和39年) | 6月 | ・学校法人日本航空学園、日本航空工業高等学校と改称 |
| 1970年(昭和45年) | 10月 | ・日本航空専門学校(各種学校)の設置認可を受ける |
| 1974年(昭和49年) | 1月 | ・日本航空大学校と改称 |
| 1976年(昭和51年) | 5月 | ・日本航空大学校(専修学校専門課程)の認可を受ける |
| 1988年(昭和63年) | 4月 | ・日本航空学園千歳校(専修学校専門課程)開校 |
| 1992年(平成4年) | 4月 | ・日本航空大学校の航空整備科、航空電子科、メカトロニクス科の3学科を日本航空学園千歳校と統合する |
| 1994年(平成6年) | 4月 | ・日本航空学園千歳校を日本航空専門学校と改称 |
| 1995年(平成7年) | 4月 | ・運輸省航空局航空整備経歴認定施設となる
4月・空港技術科を新設する
5月・白老滑空場開設
9月・労働省技能講習指定教習機関となる |
| 1998年(平成10年) | 4月 | ・郵政省無線従事者養成施設となる |
| 1999年(平成11年) | 4月 | ・運輸大臣指定航空従事者養成施設となる |
| 2001年(平成13年) | 4月 | ・航空整備科を3年制に改編
・航空工学科開設 |
| 2002年(平成14年) | 4月 | ・航空システム科を新設
・航空工学科を航空技術工学科に改称 |
| 2003年(平成15年) | 4月 | ・白老町に日本航空専門学校白老校開設
・空港技術科パッセンジャーサービスコース開設 |
| 2004年(平成16年) | 3月 | ・北海道労働局長登録教習機関となる
4月・国土交通大臣指定航空従事者養成施設となる |

2006年(平成18年)	4月	・空港技術科パッセンジャーサービスコースを空港技術科航空観光ビジネスコースに改称
2007年(平成19年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・一等航空運航整備士コース新設、テストコース指定 ・航空整備科を一等航空運航整備士コース、二等航空整備士コース、二等航空運航整備士コース、システムコース技術コースの5コースに改編 ・一等航空運航整備士基本技術課程が国土交通大臣指定 航空従事者養成施設に指定される
2009年(平成21年)	4月	・航空技術工学科を航空整備科に統合
2010年(平成22年)	4月	・一等航空運航整備士(B767) 専門課程が国土交通大臣指定航空従事者養成施設として指定をうける
2011年(平成23年)	6月	・空港技術科航空観光ビジネスコースを商業分野として国際航空ビジネス科(2年制)及び国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)に改編認可をうける
2012年(平成24年)	4月	・国際航空ビジネス科(2年制)及び国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)新設
2015年(平成27年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)の名称を国際航空ビジネス科海外研修コースに改称 ・航空整備科システムコース廃止
2016年(平成28年)	2月	・文部科学省「職業実践専門課程」の認定を受ける(空港技術科、国際航空ビジネス科)
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・国際航空ビジネス科(2年制)の名称を国際航空ビジネス科エアラインコースに改称 ・国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)の名称を国際航空ビジネス科エアライン・留学コースに改称
2017年(平成29年)	11月	・キャビントレーニングセンター新設
2018年(平成30年)	1月	・女子寮(アメリカホール)新設
	2月	・文部科学省「職業実践専門課程」の認定を受ける(航空整備科)
	4月	・白老キャンパスの国際航空ビジネス科を新千歳空港キャンパスへ移転 学科定員を40名から80名に変更、男女共学とする
2019年(令和元年)	7月	・女子寮(アメリカホール)増築
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・キャビントレーニングセンター2新設 ・教室棟(ダヴィンチホール)新設
2021年(令和3年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・校名を 日本航空大学校 北海道 に改称 ・航空工学科(4年制)を新設 ・研究科を新設

日本航空学園 建学の精神

日本航空学園の創立者「梅沢義三」は、建学の精神を『航空教育を通して愛国の精神を培う』と心に決め、昭和7年に「山梨航空機関学校」を設立しました。航空教育を行い、国家に有益な航空技術者を養成するにあたり、自分を愛し、家族を愛し、郷土を愛し、国を愛し、そして人類の共存に責任を持てる航空技術者であればこそ、愛機心を以て操縦や整備に当たることができるとの信念に基づいて教育を始めました。

二代目理事長「梅沢鋭蔵」は、創立者の建学の志を基に、校訓を定めました。

そして、現在の理事長「梅沢重雄」は、建学の志や先代が定めた校訓を基に、より豊かで優れた人間力を持つ人材の育成を目指して、「J-ship」という教育コンセプトを定めました。

校訓

- 一、礼節を尊び忍耐努力の精神を体得すべし
- 一、熟慮断行以て風林火山たるべし
- 一、至誠一貫信義を重んずべし
- 一、質実剛健文武両道に徹すべし
- 一、敬神崇祖以て伝統を承継し祖国を興隆すべし

・ **J** は、**JAPAN**（日本）、**JAA**（日本航空学園）の略称頭文字

日本航空学園で学ぶ日本人、外国人の学生、生徒を **Jship** で育みます。

・ **S** は、**SPIRIT**（精神）、**SOUL**（魂）の略称頭文字

豊かな自然、良き伝統、良き慣習、そして家族や友人、先輩、後輩などすべてのモノ、人に対して感謝と慈愛の気持ちを忘れない人間としての健全な精神、魂を持つ人であれ。

【自由と規律】

航空機は大空を自由に飛ぶことができます。しかし、飛行するためには安全が最優先されなければなりません。

このため厳しい規律に従い、整備士やパイロットは、安全運航に努めています。航空技術者としての誇りは、大空を自由に飛ぶために、最大の努力ができる不撓不屈の精神を持っていることです。己の精神と技術により、国を世界を支えていることにあります。

規律は安全への第一歩、学生生徒が自由に夢を描き、語りながら、社会人としての礼節、そして、生き方を学びます。

【想像と創造】

想像しなければ創造出来ません。人間の行為は全て想像→行動→創造と進みます。想像は願望、要求であり出発点、計画、目的、目標です。

生き甲斐を感じ充実した時間に満たされた自分を想像することにより、自分の精神が出来、創造活動が活発化し、魂が完成していきます。

心の態度で成功が決まるのです。

・ **H** は、**HEART**（心）、**HEALTHY**（健全）の略称頭文字

美しいものは美しいと感じ、良いと思えるものには素直に感動し、喜怒哀楽には正直で、他人を常に思いやることのできる純粋で、きれいで、奥深い心、感性を持つ人であれ。

【共感共創】

全国そして世界から集う学生生徒は一人一人が皆素晴らしい輝きを秘めた原石です。

ダメだ、出来ないなどマイナスの言葉を全て一掃し、出来る、可能だ、好きだ、嬉しい、楽しい、美しいなどプラスの発想で心を磨きあげるのです。

教職員も学生生徒も一緒になって学園全体を黄金で輝く愛のベールで包み、潜在する能力を開発し、学習やクラブにとともに取り組み、行事を創り試合やコンテストにチャレンジし、喜びや成功を感じ、そして感謝して共に涙を流す人間的な心を育みます。

【健全性の育成】

健全とは心身共に健やかであることを意味していますが、健全な娯楽、健全な社会、健全な家庭、健全な学校があつてはじめて健全な青年に育成されます。学校と保護者は協力し合い、外部からの感情や刺激による衝動により言動が支配されることなく、分別や筋道をわきまえ冷静さを忘れず自分と所属する集団が正しく 保持できる状態を保てる公德心と健全性を育みます。

・ I は、IDENTITY（自己）の略称頭文字

母国と自分に誇りを持ち、自己の真の確立を実現するため、自分ならではの長所、個性をしっかり伸ばしていく忍耐、努力を惜しまない人であれ。

【長所伸展】

人間は誰でも得意、不得意があります。これは個性です。不得手なものを解消することに囚われ過ぎると時間と労力がかかり却って自信喪失になります。得意なもの、好きなことを拡大することにより、短所はカバーされてしまいます。万人全て大いなる可能性と能力を秘めています。自己を信じることです。

【国際理解】

学園建学の地、山梨県甲斐キャンパスの万国旗掲揚塔に次の文章があります。

「大空は世界をつなぐ 友愛は平和を築く 海外から集いし若者達よ 全国から集いし若者達よ大地に立て 空を舞え」本学園にはアジアをはじめ世界各地からの留学生が在学しています。人種、言語、宗教、政治的信条、軍事力、経済力を越えて人類愛という友情で結びつき、共に苦しみ同じ喜びを分かち合える人間性を育みます。航空人はエアラインで世界を結ぶ重要な使命を持っています。

それには、常に自国を意識して郷土愛、祖国愛を育み、共に助け合いそれぞれの祖国の繁栄に努めることの出来る大きな心の器を持った人間性を育むことが大切です。

・ P は、POWER（力）の略称頭文字

守るべき自分の夢、母国の未来、愛すべき家族の幸福を守るために必要な知力、体力を、不屈の志を持って鍛え上げていく文武両道に徹した力のある生き方のできる人であれ。

【目標に強く進む】

航空機は常に目的地に向い自差や偏差の修正を行い横風に流されず、向い風にも負けず、中間目標を捕捉しながら飛行し続ける強いパワーが必要なのです。そして着陸まで気を抜かず安全に留意するのです。学園は常に本物に触れ、体験しながら常に目的を忘れず意識し、目標に向い進むことを大切にしています。これが、学習することの基本となります。そして、最終目的を絵や写真のようにいつもイメージすることが大切です。

【強運となる】

気運を背負ってる人間には強いエネルギーがあります。そのエネルギーがさらに強い運を呼び込むのです。運気とはエネルギーです。引力のように其のエネルギーに引かれて幸運の女神はドアを開きます。成功を自分の力量と自惚れない、失敗を運や人のせいにしないで、全ての結果を絶対的肯定して感謝し、またチャレンジする度に運が強くなってパワフルな人生が歩めるのです。

日本航空大学校 北海道 のブランドプロポジション

「自由と規律」の人間教育と専門教育を通して感性と知性を
磨き社会に役立つ人財を育成する

■令和3年度 自己評価について

学校法人日本航空学園日本航空大学校北海道は、昭和63年に開校し、以来、航空業界へ有益な人材を多数輩出して参りました。充実した教育環境の中で実習・訓練を重ねた学生たちの就職率は、平成24年度以来100%を記録しています。今後も企業のニーズに即して教育環境の整備に努め、社会の発展に貢献できる人材の輩出に努めていきます。

本校では、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として、自己評価に取り組んでおります。より良い自己評価を目指して教職員並びに評価委員が真摯に取り組む、現状の把握、課題及び今後の方向性を協議して参りました。今後は、この学校自己評価の結果を生かし、更なる教育の質の向上を図ってまいります。

1、対象期間

令和3年4月1日～令和4年3月31日

2、実施方法

- (1) 学内に「自己評価委員会」を設置し評価を行っています。
- (2) 評価は「専門学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。
- (3) 評価は、年一回年度末に行います。
- (4) 評価結果は、状況および課題と改善についてホームページで公開します。

3、自己評価の項目

自己評価は、以下の11項目について実施しています。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

4、評価項目に対する評価

評価は、4～1の点数で記載します。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

■ 1 教育理念・目標

評価項目	評価（4～1）
理念・目的・育成人材像は定められているか （専門分野の特性が明確になっているか）	4
学校における職業教育の特色を示しているか	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4

状況および課題と改善策

- *教育の理念及び目的においては建学の精神をもとに、校訓・Jship・ブランドプロポジションなど具体的かつ明確に定め、社会に求められる人材を学科ごとに企業との連携を図って育成している。
- *学校の将来構想については社会経済や業界のニーズに応えるべく令和3年4月より4年制の航空工学科がスタートし、航空宇宙関連のエンジニアとして幅広い人材の輩出を目指す。
- *教育理念、人材育成像など、SNSによる情報を発信し、本校だけでなく学園全体で共有している。
- *学生や保護者をはじめ、高等学校などの進学を考えている方々に向けて、学内行事や就職状況を積極的に発信している。在学生一人ひとりの進学を決めてから就職内定までのストーリーなどを学生の広報担当からも学生目線で学生募集部から発信することで、コロナ禍の不安も払拭し、より身近に将来構想を持って本校の教育の意義を広く理解いただけるよう周知している。

■ 2 学校運営

評価項目	評価（4～1）
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、明確化され、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
各部門の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

状況および課題と改善策

- *長期化するコロナ禍により航空業界の求人が少なくなっている中、就職率は100%を継続している。本校は優れた人材を育成するために、施設・設備の充実を図るとともに環境

整備を行い、学生の教育環境を改善している。

*本学園規程により、人事・給与に関する制度は整備されている。

*教育活動に関する情報公開については、コロナ対応状況、就職状況、学校近況報告など随時更新公開されている。また、学校HP以外でのSNSを活用した活動内容を常に発信している。

*情報システム化による業務の効率化については、クラウドを利用したグループウェアシステムを導入して7年目になり教職員の活用状況は良好である。またeラーニングシステムやBLENDを活用し教員と学生間の情報共有をペーパーレス化した。また、Teamsを使用しオンライン授業や面接練習、会議など幅広く活用し業務の効率化を図った。その中でも、2年目になる校務支援システム（BLEND）は当初の出席簿、出席率、健康管理に加え、成績管理、学生アンケートなど幅広く活用しペーパーレス化を図った。

■ 3 教育活動

評価項目	評価（4～1）
教育理念に沿った教育課程の編成・方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
関連分野における先端的な知識・技能的な修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか	4
教職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

状況および課題と改善策

*教育理念に沿った人間教育の向上を目指し、理事長による学生全体への講話をYouTubeライブの配信を継続。また、コロナの状況を考慮して、学生を入れ替えての従来の体育館での聴講も並行して実施した。

*公務支援システムBLENDを活用し、学生情報の共有と効率化を進める。各学生の健康状態も教職員で共有し、対面、オンラインを必要に応じて切り替えて授業の提供を継続するために活用した。

- * オンライン授業では Teams を活用した双方向通信による授業を継続し、e-ラーニングシステムでの課題の提出、確認試験にてレベルチェックを実施。さらにオンラインでのシステムの併用により授業・予習・復習を円滑に実施し教育到達レベル向上を目指す。また、チャット機能を活用し放課後などに、個別に補講を提供しフォローも実施した。今後もオンラインの活用を進め、さらに教育の効率化と内容の充実を進めていく。
- * コロナ対策として状況に応じてクラスを分散（オンライン・複数教室の使用）し、教室には送風機を設置。リハビリ大学との合同職域集団ワクチン接種を実施して感染拡大の防止を徹底。
- * 在学生の学校生活や就職活動などの様子を文書にして、家庭、母校へ近況報告として郵送。自らの考えを伝える文書作成能力の向上、目標達成のためのモチベーションアップ、また学習意欲を高めることで更なる成長を図ることができた。
- * 従来の3学科に加え、新設された航空工学科の授業を開始。航空業界のみならず、設計、製造のエンジニアを現場に派遣できるよう幅広く即戦力となる人材を育成するべく、工夫・改善を実施した。
- * キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムの見直しは、教育課程編成委員会や就職先企業を訪問した際にヒアリングを行い実施した。引き続き改善を行い即戦力となる人材育成に努めていく。
- * 学生への授業アンケートを Forms にて年2回実施。各教員がアンケート結果を反映させることで授業の質の向上を目指し、学科長および学科内で共有することで課題に取り組む体制を構築した。
- * 外部講師（パイロット）による講演、自衛隊による装備品の展示を校内で行い、現場の声、実際の車両に触れることで、キャリア選択を考える機会を提供した。
- * 成績の点数配分を各学科にて見直しを実施。期末テストの点数を8割ほどとして、授業に意欲的な参加も評価する出席点、確認試験の結果、小論文、レポートも加点した裁量点を導入して学生にも開示し、学習成果と意欲向上を目指す。
- * 教員スキルアッププログラムを導入。航空業界を担う学生の育成を目指して、教員一人ひとりの資質能力や意欲の向上、学校づくりの推進を図ることを目的とした。年度開始時に自己目標とその手立てを明確に設定し、学生アンケートの結果と目標の進捗・達成状況の面談を学科長と年2回実施。それぞれの課題を明確にし、自己評価・達成度を学科内でも共有して改善することで教員の資質向上を図る。今年度はプログラム実施の結果、学生アンケートの「理解度」が上がるなどの結果を出した。

■ 4 学修成果

評価項目	評価（4～1）
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3

状況および課題と改善策

- * 国際航空ビジネス科は12年連続、空港技術科、航空整備科は10年連続就職率100%を維持している。令和3年度も昨年度同様新型コロナウイルスの影響があったが、令和2年度より求人数、合格率について改善が見られ100%を達成できた。内定進捗状況にも改善がみられ、内定が早期に決まるようになってきた。本校の特色である人間教育と実践教育の充実を更に進めたい。面接指導においても、複数の教員による指導や指導回数の把握により成果の向上を図りSPI対策もe-ラーニングシステムでの充実を進めて行く。
- * e-ラーニングシステム、BLENDなどを活用し予習、復習の徹底及び進捗状況の把握の徹底を図ってきた結果、1回目での合格率が向上した。ディプロマでは若干数字を下げたが、高得点を取得する学生が半数を超え、質の向上がみられた。それを合格率向上につなげるべく学生相互で指導する事などを徹底したい。また、繰り返しの実技指導の結果、知識技術の定着、統一が図られた。資格の必要性などを丁寧に説明し、学生の自主的な勉強を推進し、更に資格取得率の向上を図るべく工夫をしていく。
- * 令和3年度は令和2年度に比べ退学者が微増した。1年生の退学希望者の多くは進路変更を希望なので本学のコロナ禍における就職実績やコロナ後を見据えた航空需要の回復などの説明を行い理解させてきた。今後もきめ細やかな担任の面談等のケアを保健担当教員、外部カウンセラーと引き続き連携して実施していく。1年生を企業説明会へ積極的に参加させ、本学と企業の信頼関係や就職先の幅の広さを理解させることによりさらに退学率低減を図っていく。
- * 新型コロナウイルスの影響によりOB,OGの活動も大きく制限を受けているためOB,OGによる講演や、企業へのインターンシップの機会が減少した。ただオープンキャンパスなど卒業生が来校し、その際に学生の交流をすることができた。教職員の定期的な就職先企業への訪問も再開して、卒業生の状況やニーズなど情報交換を積極的に行いたい。

■ 5 学生支援

評価項目	評価（4～1）
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

状況および課題と改善策

- *進路、就職については担任制を導入し、キャリアセンターと連携の上、きめ細かく対応している。当年度も希望者について100%を達成した。
- *学生相談に関する体制は担任や学科、保健担当やスクールカウンセラーと内容や段階を踏みながら相談を受けられ、学内で速やかに共有ができる体制を整えている。
- *健康管理については学内と学外に分かれるが、学内においては担任、寮監、保健担当、およびコロナ対策委員会において把握し対処を行っている。当年度は新型コロナウイルスのクラスター感染は発生していない。また、学外に於いては千歳保健所と連携して対処している。
- *課外活動について、ボランティア活動や部活動においては教員の引率のもと実施している。当年度に於いてはイベントのキャンセルが相次ぎ、外部依頼は1回の参加となる。
- *生活環境について、学生寮は寮監が24時間体制で勤務についており、寮生の荷物の受け渡しや体調不良があっても対応できる体制を整えている。食事については管理栄養士のもと栄養バランスが考えられた食事を寮生は3食、通学生は昼食を食堂で提供している。
- *保護者との連携は、ホームページ、LINE、郵送等でお知らせを発信し、複数の媒体において情報が取得できる体制を整えている。校務システムのBlendを保護者との連絡に盛り込みたい。
- *教育環境について、対面授業に於いては教室、実習場が充足している。オンライン授業に於いてはTeamsによる双方向授業が2年目、Glexaによるeラーニングシステムが5年目を迎える。いずれも充実した体制を整えている。
- *連携授業については高校への出前授業や、企業との連携で実施する「そらゼミ」を通年実施し、本校への進学や航空業界裾野拡大に努めている。

■ 6 教育環境

評価項目	評価(4~1)
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4
学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	4
防災・防犯に対する安全管理体制は整備されているか	4

状況および課題と改善策

- *施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているかについて、職業実践専門課程での教育編成委員会を通して、最新の正しい情報を得ることが出来ている。また教員個々の企業研究の機会を増やし、学生の教育・進路指導に役立っている。令和3年度では、航空工学科が新設され、12名の学生が入りスタートしており、また、人員増に伴い3DCAD (CATIA) 9台を追加し計20台を設置した。また3Dプリン

ター4台を設置した。

- *学内外の実習、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか、および学生が自主的に学習するための環境が整備されているかについては、新千歳空港をはじめ、羽田・成田空港等でも、職業実践専門課程賛同企業のご協力の下、それぞれの学科でインターンシップを行っており、学生は高いレベルで専門性の高い知識・技術を習得することが出来ている。また放課後教員が教室等に残り、補習授業等を実施した。
- *防災・防犯に対する安全管理体制は整備されているかについては、学科別の防災訓練を実施しており、また日直・宿直教員が、学校内の防災・防犯点検を毎日実施。

■ 7 学生の受け入れ募集

評価項目	評価（4～1）
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生の募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

状況および課題と改善策

- *イベント型のオープンキャンパスを実施した。
- *学生主体で募集活動をする『広報学生』を組織し、学生が直接オープンキャンパスで参加者に対応することで、学校の教育成果を伝えオープンキャンパスのリピーターを増やすことができた。また SNS の活用により情報発信の頻度を増やしフォロワーを増やすことができた。
- *コロナ禍でも特別採用枠を企業からいただき、客室乗務員、航空整備士、グランドスタッフが生産している情報を発信し、募集に繋げることができた。
- *総合パンフレットの内容を充実させた。こういった職業なのか、業務内容の詳細を記し、学びがどのように現場で活かされるのかを表現している。
- *学納金・有資格者特待制度等は、教育内容や施設設備の状況を鑑みて、同分野の他校と比較検討したうえで決定しており、ほぼ平均的な額と考える。

■ 8 財務

評価項目	評価（4～1）
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

状況および課題と改善策

- *財務諸表の通り、財務内容は安定している。今後も、一定以上の学生数を確保することで、財務内容の安定を図っていく必要がある。コロナ禍ではあるが、航空業界及び

社会の動向を見極めながら、収入安定化・経費削減に努めて、財務基盤を強化していく。

- *収入安定化の対策として寄付金制度の充実を図った。保護者に対する寄付金制度は従来からあったが、卒業生や企業の方々からの寄付申出が増えているため、令和3年度より専用ホームページを立上げ、寄付金を募っております。
- *予算編成については、必要性や整合性を学内審議で検討し、予算案を立案している。理事会・評議員会の決議により成立し、予算執行は各部署が責任をもって管理し、財務担当部署が内容を精査している。また、教育や業務運用上、必要が生じた場合は学内稟議により追加措置を行うこととしている。
- *私立学校法および寄附行為に基づいて選任した監事2名による監査が行われ、監事は理事会に出席して監査結果を報告している。監査結果には長期にわたって指摘事項がないため、事業運営・業務・予算執行・会計等、学園運営全般において適法で適正な状態であると認識している。
- *財務諸表については、学校ホームページにて情報公開している。

■ 9 法令等の遵守

評価項目	評価（4～1）
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

状況および課題と改善策

- *法令や設置基準の遵守については適正に行われており、遵守する規程については、学校内・各部署内で共有化されている。
- *個人情報の保護については、学園として「個人情報保護規程」「個人情報保護委員会規則」を定め、運用すると共に、担当部署における取扱いに関する注意事項の徹底、教職員や関係外部の方への案内等を実施し、対応している。
- *自己評価については、「学校自己評価委員会」を組織し、定期的な評価を通して問題点を明らかにすると共に、その対策および改善策を検討している。
- *自己評価結果については、学校関係者評価委員会開催後に本校ホームページにて情報公開している。

■ 10 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価（4～1）
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4

地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4
---	---

状況及び課題と改善策

- * ボランティア活動は4回、延べ44名が参加。コロナ禍においてイベントの中止が相次いだため、市主催のまちなかクリーン大作戦、クラス内の有志が自主的にゴミ拾い活動を行った。個人的な活動も見受けられ、休日や長期休暇を利用して地元にて参加をする学生もいた。コロナ禍で、感染予防等の工夫をして、活動をした。
- * 教育資源・施設の活用について、地元航空少年団の活動の場として実習エリア（元滑走路）や体育館を提供している。
- * 公開講座・教育訓練の受託について、工業高校のインターンシップの受入や、小中学校の見学受入等を実施し、航空業界の裾野拡大や本校への進学につなげるよう努めている。
- * 令和3年度、文部科学省が公募した「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」において本学の「航空人材育成プログラム」が採択されました。これは、専門学校・高校・企業・行政が連携して進める事業であり、高校の段階から専門学校の授業を組入れることにより、より優れた航空人材の育成を目指すと同時に、専門学校進学後の中途退学を減少させることを目的としております。文科省より毎年予算も付く事業となっており、今後の学生数増加にも寄与する事業であると考えております。

■ 1.1 国際交流

評価項目	評価（4～1）
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学内で海外研修など適切な体制が整備されているか	4
海外留学に対する適切な体制が整備されているか	4

状況および課題と改善策

- * 韓国からの留学生が2名在籍。整備科2年生1名、3年生1名が在籍。そのうちの3年生はJAL EC様より内定をいただき、大学校に在学した後にしっかりと就職に結びつけることができている。留学生に対しても就職活動のサポートを手厚く指導している結果である。
- * 国際航空ビジネス科では、令和3年度はコロナ禍でありながらも長期留学を復活させている。トロント10名、バンクーバー5名、シンガポール3名、ロンドン1名が留学。出発前には必ずワクチン接種を勧め、現地の語学学校で学びながら、ホームステイや寮での生活を満喫。日本からは担当教員による月1回のオンライン面談・学生のレポート提出・学生からのヒアリングなどにも力を入れており、充実した留学生活をおくれるようにコミュニケーションを密にしている。

- * 留学中は月 1 回実施している本校教員とのオンライン面談のおかげで、コロナ渦で現地校の授業がなかなか対面で行われない中でも手厚いサポートを実現することができた。対面での授業を実施している学校への転校など、適切に海外留学を進めることができた。
- * コロナ渦ということもあり、なかなか思うように海外との交流することが難しかった。しかしながら、令和 3 年は合計 19 名の長期留学者が渡航し海外留学を実現させている。渡航中にコロナ感染することもなく、無事に帰国している。帰国後も学内での受け入れ態勢はしっかりと整備されており、帰国後も通常のエアラインコースの学生とは別クラスで 3 か月ほど英語を集中的に勉強。春から 1 学年下のクラスとともに授業を受けている。このため帰国後すぐに始まった就職活動にも出遅れることなく、全員が夏までに航空会社を中心に内定取得。19 名中 4 名は客室乗務員の内定を得ることができた。